様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	杏林大学
設置者名	学校法人　杏林学園

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
医学部	医学科	夜・通信	0	85	0	85	19	
保健学部	臨床検査技術学科（旧課程） 臨床検査技術学科（新課程）	夜・通信		0	16 12	28	13	
	健康福祉学科（旧課程） 健康福祉学科（新課程）	夜・通信			12 15	27	13	
	臨床工学科（旧課程） 臨床工学科（新課程）	夜・通信			44 2	46	13	
	救急救命学科	夜・通信			71	71	13	
	理学療法学科（旧課程） 理学療法学科（新課程）	夜・通信			13 64	77	13	
	作業療法学科（旧課程） 作業療法学科（新課程）	夜・通信			15 33	48	13	
	看護学科看護学専攻（旧課程） 看護学科看護学専攻（新課程）	夜・通信			48 33	81	13	
	看護学科看護養護教育学専攻（旧課程） 看護学科看護養護教育学専攻（新課程）	夜・通信			31 45	76	13	
	診療放射線技術学科（旧課程） 診療放射線技術学科（新課程）	夜・通信			43 48	91	13	
	臨床心理学科	夜・通信			30	30	13	
	リハビリテーション学科 理学療法学専攻	夜・通信			15	15	13	
	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	夜・通信			15	15	13	
	リハビリテーション学科 言語聴覚療法学専攻	夜・通信			14	14	13	
総合政策学部	総合政策学科（新課程） 総合政策学科（旧課程）	夜・通信		60	4 4	14	13	
	企業経営学科（新課程） 企業経営学科（旧課程）	夜・通信			10	16	13	

外国語学部	英語学科（新課程） 英語学科（旧課程）	夜・通信		140	0	14	13	
	中国語学科（新課程） 中学語学科（旧課程）	夜・通信			0	14	13	
	観光交流文化学科（新課程） 観光交流文化学科（旧課程）	夜・通信			0	14	13	
（備考） 理学療法学科および作業療法学科については、令和5年3月31日に学生募集の停止を行っており、新たに令和5年4月1日よりリハビリテーション学科に再編され、理学療法学専攻、作業療法学専攻、言語聴覚療法学専攻になりました。								

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/student/jugyo/syllabus/

３．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	杏林大学
設置者名	学校法人　杏林学園

１．理事（役員）名簿の公表方法

https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/outline/list/

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	広島県公立大学法人・理事長	2022 年 4 月 ～ 2026 年 3 月	組織運営体制へのチェック機能
非常勤	公立大学法人奈良県立医科大学・教授	2022 年 6 月 ～ 2026 年 3 月	組織運営体制へのチェック機能
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	杏林大学
設置者名	学校法人　杏林学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書（シラバス）を作成し、公表していること。	
（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要） ＜医学部＞ 「履修案内・授業案内（シラバス）」は、科目毎に「教育の基本方針、到達目標、修得すべき能力、学習内容、実習・課外授業、準備学習の内容、復習学習の内容、成績評価の方法・基準、学習指導書」を記載することを作成要領に記し、科目責任者等に作成を依頼する。また、講義予定表には講義回毎の講義テーマ、講義内容、担当教員、教科書該当箇所を明示している。 また、シラバス作成の過程で、シラバス点検委員による点検作業を受けている。 完成した「履修案内・授業案内（シラバス）」は年度初めに学生に配布（電子）するとともに大学 HP において公表している。 ＜保健学部・総合政策学部・外国語学部＞ シラバスの作成においては、各学部でＦＤを実施し、シラバスの重要性、作成のための理解を深めている。また、作成要領を教務委員会および教授会にて周知をし、共通認識のもと各教員はシラバスの作成を行う。 毎年10月頃に開講科目担当者等の調査を行い、11月末から12月までに本学で導入している学内システム（UNIVERSAL PASSPORT）のシラバス機能にて教員が作成する。 また、シラバス作成要領なども教務委員会や教授会にて周知、記載の統一を行っている。シラバス作成後は、教務課事務が校正および教務委員によるシラバス第三者チェックを実施している。 シラバスデータは、学内システム（UNIVERSAL PASSPORT）にて学内および学外からWEBシラバスを閲覧できるようにしている。	
授業計画書の公表方法	＜医学部＞ 「履修案内・授業案内（シラバス）」の配布（電子）及び大学 HP でも公表している。 http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/medicine/education/subjects/ ＜保健学部・総合政策学部・外国語学部＞ 大学ホームページで公表している。 https://portal2.kyorin-u.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml
２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）
＜医学部＞
科目毎に示した「成績評価の方法・基準」及び「杏林大学医学部学修規程」に基づき、成績判定を実施している。
判定は、Ｓ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの５段階の評語で示され、総合判定を１００点満点とした場合、Ｓが９０点以上、Ａが８０点以上９０点未満、Ｂが７０点以上８０点未満、Ｃが６０点以上７０点未満、Ｄが６０点未満若しくは、受験資格喪失のための未受験を意味し、Ｓ、Ａ、Ｂ、Ｃを合格、Ｄを不合格としている。また、他大学等で修得した学科目（単位）を認定した場合の評語はＮと示している。

＜保健学部・総合政策学部・外国語学部＞
定期試験、実技試験、レポート等などを学期末に行い、各科目の授業計画に明記している成績評価の方法・基準を基に成績評価を実施している。
判定はＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの５段階の評語で示され、総合判定を 100 点とした場合、Ｓが 90 点以上、Ａが 80 点以上 90 点未満、Ｂが 70 点以上 80 点未満、Ｃが 60 点以上 70 点未満、Ｄが 60 点未満若しくは定期試験欠席を意味し、Ｓ、Ａ、Ｂ、Ｃを合格、Ｄを不合格としている。また、出席不良等により、判定不能な場合の評語はＥで示す。そのほか、単位認定を受けた科目の評語はＮで示している。（各学部履修規程に規定）。

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）
＜医学部＞
グレード・ポイント（以下「ＧＰ」という。）を設定し、下記の計算式によりＧＰの平均値であるグレード・ポイント・アベレージ（以下「ＧＰＡ」という。）を算出する。成績の評価に対するＧＰは、Ｓが４点、Ａが３点、Ｂが２点、Ｃが１点、Ｄが０点とする。
ＧＰＡ＝｛(評価を受けた科目のＧＰ）×（当該科目の単位数)｝の累計／（履修単位数の合計）の累計
大学として成績の分布状況を把握し、また学生は学年末に通知される「成績通知書」にて、各科目の成績（科目平均点含む）及び順位を把握している。

＜保健学部・総合政策学部・外国語学部＞
・成績評価は、グレード・ポイント（以下「ＧＰ」という。）を設定し、計算式によりＧＰの平均（グレード・ポイント・アベレージ（以下「ＧＰＡ」という。）を算出することで、総合成績評価を行う。成績の評価に対するＧＰは、Ｓが4点、Ａが3点、Ｂが2点、Ｃが1点、Ｄ、Ｅが0点とする。
＜算出基準＞
ＧＰＡ＝｛（各学期に評価を受けた科目のＧＰ）×（当該科目の単位数）｝の累計／（各学期配当の履修登録科目の単位数の合計）の累計
なお、履修登録科目のうち、成績評価未定の授業科目及び履修を中止した授業科目（総合政策学部・外国語学部）はＧＰＡ計算には含めず、評価が確定した時点での総合成績評価に加える。また、授業科目のうち自由科目及び単位認定科目はＧＰＡ対象外とする。
成績の分布状況等においてＧＰＡが下位にある学生については、履修指導の対象としている。

客観的な指標の 算出方法の公表方法	＜医学部＞ 「杏林大学医学部学修規程」に規定され、「履修案内・授業案内（シラバス)」及び大学 HP にて公表している。 http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/student/jugyo/syllabus/ ＜保健学部・総合政策学部・外国語学部＞ 大学ホームページに履修規程及び履修案内を掲載している。 http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/student/jugyo/rules/

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

＜医学部＞

【ディプロマ・ポリシー】

（1）医師の社会的責任

医師の職責の重大性を理解し、高い倫理観と豊かな人間性に基づき、医師として責任のある行動がとれる。

（2）医学知識と技能

基本的な医学知識及び技能を修得するとともに、医学・医療の進歩に目を向け、生涯にわたって自己の知識・技能を改善・発展させる意欲と素養を有する。

（3）問題解決能力・リサーチマインド

医学・医療上の課題の特定と問題の解決に必要な能力と資源の活用法を身につけ、科学的な思考・分析に基づいた的確な判断を行うことができる。

（4）コミュニケーション能力

多様化・国際化の進む社会において、医療チームの一員として患者・家族との良好な信頼関係を構築するとともに、国内外の医学・医療関係者との交流を図るためのコミュニケーション能力ならびに外国語運用能力を有する。

（5）医学・医療と地域・社会との関わり

公衆衛生の基本的な知識及び手法を修得し、健康・福祉の増進に関して、地域・社会の要請に応えることができる。

【卒業要件】※別表１－１～別表１－７は省略

別表１－８の適用を受ける者（令和５年度入学生から適用）は、６年以上在学し２０７単位を修得しなければならない。

【卒業判定の手順】

卒業時点で定められた能力を獲得し、卒業要件を満たし、これらをすべて修得したと認められる学生については、教授会の議を経て学長が卒業を認定する。

＜保健学部＞
〇ディプロマ・ポリシー
（1）高い倫理観と社会的責任遂行能力
高い倫理観を持ち、医療専門技術職が地域社会に求められる能力を身につけ、社会的責任を積極的に果たすことができる。
（2）各学科に求められる基本的かつ実践的能力
各学科で求められる基本的知識および技術を修得し、これを実践の場で活用することができる。
（3）問題解決能力
自ら発見した問題や課題について、科学的かつ客観的に説明を加え、論理的に問題を解決できる。
（4）コミュニケーション能力を生かし医療・保健へ貢献する能力
患者を中心とするチーム医療の一員および養護教諭や社会福祉士として他の医療従事者と連携・協働できる
（5）国際的視野を持って適応できる知識や技術の活用能力
幅広い教養と医療知識を身につけ、多様な価値観の認識と異文化を理解し、グローバル社会に適応できる。
〇卒業要件
臨床技術学科、健康福祉学科、臨床工学科、救急救命学科及び臨床心理学科においては 4 年以上在学し 124 単位以上

＜総合政策学部部＞
〇ディプロマ・ポリシー
（1）多角的な視野
社会が内包する諸問題を、多角的視点から発見・理解・分析・考察できる。
（2）地域・国際社会に通じる実践力
地域・国際社会の一員として自己の役割を、実践的な学びを通して、理解できる。
（3）幅広い教養
高い倫理観を持ち、ある特定の分野のみに限定されない、偏りのない、幅広い教養と知的好奇心とを身につけ、社会で活躍できる。
（4）学際性の軸となる専門的な知識
学際的な視点を持って問題を解決するための軸となる専門知識を修得し、活用できる。
（5）コミュニケーション・コラボレーション能力
自己の発見した問題の本質的理解、客観的分析結果を他者に適切に伝えるとともに、他者の意見を傾聴しつつ、協働的に問題解決に取り組むことができる。
（6）データ分析・活用能力
情報技術と社会システムの理解をもとに、高度情報化社会で必要な情報の利活用能力を修得し、社会における諸問題を発見し解決できる。
（7）ライフ・デザイン・スキル
社会における個人の果たすべき責任と役割を認識し、自己の進むべき方向性を見定め、社会生活・経済生活を営むことができる。
〇卒業要件
4年以上在学し、124単位以上を修得しなければならない。
〇卒業判定の手順
卒業時点までに定められた能力を獲得し、卒業要件を満たし、これらをすべて修得したと認められる学生については、教授会の議を経て学長が卒業を認定する。

<table>
<tr><td colspan="2">＜外国語学部＞
〇ディプロマ・ポリシー
（1）高度な外国語運用能力
母語だけではなく少なくとも一つの外国語（英語又は中国語）を実践的かつ高度に運用できる。
（2）コミュニケーション能力
グローバル社会で良好な対人関係を主体的に築くことを目指し、ホスピタリティに溢れたコミュニケーションができる。
（3）問題解決能力
知識・技能を活用しながら、自ら問題・課題を発見し、情報分析能力・データ分析能力を活用した客観的分析と柔軟な発想によって問題を解決することができる。
（4）自己表現力・情報発信力
他者の意見・主張を尊重し理解した上で、議論・交渉の場において自らの意見を明確に表現し、新たな情報を創造・発信することで建設的な結論を導くことができる。
（5）異文化理解とグローバル人材力
幅広い教養を身につけ、多様な価値観の認識・尊重と適切な正しい異文化理解に基づいて、グローバル社会で他者と協働し活躍することができる。
（6）高い倫理観と社会的責任遂行能力
グローバル社会・地域社会の持続的発展のために、将来を見据え自律的に行動し、他者と協調・協働しながら、高い倫理観を持ち、社会的責任を積極的に果たすことができる。
（7）専門的な知識・技術・技能と活用力
実社会の中で必要な基礎専門能力を修得し、それを発展的に活用することができる。
〇卒業要件
4年以上在学し、124単位以上を修得しなければならない。
〇卒業判定の手順
卒業時点までに定められた能力を獲得し、卒業要件を満たし、これらをすべて修得したと認められる学生については、教授会の議を経て学長が卒業を認定する。</td></tr>
<tr><td>卒業の認定に関する
方針の公表方法</td><td>＜医学部＞
「履修案内・授業案内（シラバス）」及び大学 HP にて公表
http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/policy/

＜保健学部・総合政策学部・外国語学部＞
大学ホームページに公表
http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/policy/</td></tr>
</table>

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	杏林大学
設置者名	学校法人　杏林学園

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/outline/financial/
収支計算書又は損益計算書	上記に同じ
財産目録	上記に同じ
事業報告書	上記に同じ
監事による監査報告（書）	上記に同じ

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：　　対象年度：　　）	
公表方法：	
中長期計画（名称：　　対象年度：　　）	
公表方法：	

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

公表方法：大学ホームページにて公表
https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/outline/torikumi/evaluation/

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：大学ホームページにて公表
https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/outline/torikumi/evaluation/

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　医学部
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ上にて公表） https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/medicine/aboutus/root/
（概要）医学部の理念・目的は、「豊かな人間性の涵養と、医学の発展に対応しうる基礎的及び専門的知識の修得と臨床的技能の修練を通じて、良き医師を養成する」ことにある。
卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ上にて公表） https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/policy/
（概要）医学部医学科では、その理念に基づき、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定める。必要な単位取得等の卒業要件を満たし、これらの能力をすべて修得したと認められる学生に学士（医学）を授与する。 **(1) 医師の社会的責任** 医師の職責の重大性を理解し、高い倫理観と豊かな人間性に基づき、医師として責任のある行動がとれる。 **(2) 医学知識と技能** 基本的な医学的知識及び技能を修得するとともに、医学・医療の進歩に目を向け、生涯にわたって自己の知識・技能を改善・発展させる意欲と素養を有する。 **(3) 問題解決能力・リサーチマインド** 医学・医療上の課題の特定と問題の解決に必要な能力と資源の活用法を身につけ、科学的な思考・分析に基づいた的確な判断を行うことができる。 **(4) コミュニケーション能力** 多様化・国際化の進む社会において、医療チームの一員として患者・家族との良好な信頼関係を構築するとともに、国内外の医学・医療関係者との交流を図るためのコミュニケーション能力ならびに外国語運用能力を有する。 **(5) 医学・医療と地域・社会との関わり** 公衆衛生の基本的な知識及び手法を修得し、健康・福祉の増進に関して、地域・社会の要請に応えることができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ上にて公表） https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/policy/
（概要）医学部医学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの修得のために、医学準備教育、行動科学、基礎医学、臨床医学、社会医学、外国語の 6 つの領域からなる授業科目を体系的、順次的に編成し、多様な教育方法を適切に組み合わせた授業を実施する。科目間の関連や科目内容の順次性を示したカリキュラムマップにより、カリキュラムの体系をわかりやすく提示する。 教育内容、教育方法、成果の測定については以下のように定める。 **(1) 教育内容** **(1-1) 医師の社会的責任を修得するために** 医師の職責の重大性を理解し、高い倫理観と豊かな人間性を涵養するために、「生命倫理と医療安全」、「人文生命科学特論」、「早期体験学習」などとともに、医のプロフェッショナリズム、医師のキャリア形成、心理学などの内容を取り入れた「行動科学」を配置する。 **(1-2) 医学知識と技能を修得するために** ・医学専門教育への円滑な導入を図るために、医学準備教育科目として「入門化学」「生体化学」「入門生物学」「生物学」「入門物理学」「医学物理学」「医学統計学」「情報科学」を体系的、順次的に配置する。 ・基礎医学の知識と技能を修得するために、「肉眼解剖学」「組織解剖学」「細胞生物学」「分子生物学」「代謝生化学」「病態生理学」「統合生理学」「病理学」「薬理学」「感染症・免疫学」「熱帯病・寄生虫学」の講義及び実習を体系的、順次的に配置する。 ・臨床医学の知識と技能を修得するために、臨床医学各科の講義および臨床実習を体系的、順次的に配置する。

・生涯にわたって自己の医学知識・技能を改善・発展させる意欲と素養を涵養するために、医のプロフェッショナリズム、医師のキャリア形成、情報科学などの内容を取り入れるとともに、臨床実習を含むすべての科目において生涯学習への動機づけと能力の修得を図る内容を取り入れる。

(1-3)問題解決能力・リサーチマインドの涵養のために

・医学・医療上の課題の特定と問題の解決に必要な能力、さらにリサーチマインドを涵養するために、「プレチュートリアル」、「チュートリアル」を配置するとともに、基礎医学、臨床医学、社会医学各科目の講義及び実習において、基本的な研究手法に関する内容を取り入れる。また、その際に必要となる資源の活用法を修得するために、「情報科学」を配置する。

(1-4)コミニュケーション能力の涵養のために

・患者・家族との良好な信頼関係の構築とともに、医療チームの様々な職種のメンバーとの円滑な意思疎通、医学・医療関係者との交流に必要となるコミニュケーション能力を涵養するために、「早期体験学習」、心理学やカウンセリングなどの内容を取り入れた「行動科学」を配置する。

・多様化・国際化の進む社会において患者・家族との良好な信頼関係を構築するとともに、国内外の医学・医療関係者との交流を図るために必須となる「英語・医学英語」「実践英語」「ドイツ語」「フランス語」「中国語」などの外国語科目を体系的、順次的に配置する。

(1-5)医学・医療と地域・社会との関わりを理解するために

・医学・医療と地域・社会との関わりを理解するとともに、公衆衛生の基本的な知識及び手法を修得するために、「早期体験学習」のほか、「衛生学」、「公衆衛生学」、「法医学」などの社会医学科目を体系的、順次的に配置する。

(2)教育方法

(2-1)医師に求められる知識、技能、態度の修得のために

上記教育内容の修得を確実なものとするために、医学準備教育、行動科学、基礎医学、臨床医学、社会医学、外国語いずれの領域においても、その教育内容に応じて、講義、演習、実習、地域の医療・福祉現場における体験学習、少人数グループワークによる能動的学習(アクティブラーニング)などの多様な教育方法を効率的に組み合わせて実施する。

(2-2)臨床応用能力の修得のために

臨床医学については、実際の臨床の場での応用力を涵養する目的で、見学型の臨床実習に加えて、診療参加型の実習を重点的に配置する。

(3)成果の測定

(3-1)知識に関連する学修成果の達成は、いずれの領域においても筆記試験(小試験、月例テスト、定期試験、総合試験)、共用試験CBT、口頭試問のほか、レポート、ポートフォリオ、プレゼンテーションの観察記録などにより評価する。

(3-2)技能に関連する学修成果の達成は、医学準備教育、行動科学、基礎医学、社会医学、外国語の各領域では筆記試験(小試験、月例テスト、定期試験、総合試験)、口頭試問のほか、レポート、ポートフォリオ、実習やプレゼンテーションの観察記録などにより評価する。臨床技能については臨床実習前(共用試験)OSCE、臨床実習後 OSCE のほか、臨床実習中の観察記録などにより評価する。

(3-3)態度に関連する学修成果の達成は、医学準備教育、行動科学、基礎医学、社会医学、外国語の各領域においては講義や実習中の観察記録などにより評価する。臨床医学においては、臨床実習前(共通試験)OSCE、臨床実習後 OSCE のほか、臨床実習中の観察記録などにより評価する。

(3-4)いずれの評価についても、その詳細は「履修案内・授業内容(シラバス)」に記載する。

(3-5)各学年終了時には、各科目について、国際的な成績評価指標である GPA(Grade Point Average)で評価する。

(3-6)大学 IR コンソーシアム「学生共通調査」を実施し、学士課程の成果を把握する。

入学者の受入れに関する方針(公表方法::ホームページ上にて公表)

https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/policy/

(概要)医学部医学科は、本学科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲ある人材を求めている。具体的には、次のような資質をもつ学生を求めている。

(1)求める学生像、資質

(1-1)生涯を通じて医師として他人のため、社会のために奉仕する強い意欲をもつ人

(1-2)生命の尊厳を尊ぶ心をもつとともに、高い倫理観と豊かな人間性を備えた人

(1-3)協調性と高いコミュニケーション能力をもち、周囲の人と良好な関係を築ける人

(1-4)柔軟な思考力と知的探究心をもち、生涯を通じて医学の修得・研鑽に熱意をもって取り組める人

(2)求める学習成果
「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)及び「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に揚げる知識・技能や能力を備えた人を求める。
(2-1)入学後の修学に必要な基礎学力としての知識や実技能力を有している。(知識・理解・実技能力)
・高等学校で履修する数学、理科、英語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。
・基本的な英語力及び日本語運用力と表現力を身につけている。
(2-2)知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて物事を多面的かつ論理的に考察することができる。(思考力・判断力)
(2-3)自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。(表現力)
(2-4)教育、人間、自然、文化などにかかわる諸問題に深い関心を持ち、社会に積極的に貢献する意欲がある。(関心・意欲)
(2-5)積極的に他者とのかかわり、多様な人々との対話を通して相互理解に努めようとする態度を有している。(態度・主体性・多様性・協働性)

(3)入学者選抜の基本方針
本学科の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施する。
(3-1)一般選抜
一般選抜試験(数学、理科、英語)の成績、小論文、面接、調査書の内容を総合して評価する。
(3-2)大学入学共通テスト利用選抜(前期)
大学共通テスト(数学、理科、英語)の成績、小論文、面接、調査書の内容を総合して評価する。
(3-3)外国人留学生選抜
一般選抜と同一の選抜方法、選抜基準により評価する。

学部等名　保健学部
教育研究上の目的(公表方法:ホームページ上にて公表) https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/health/about/outline/
(概要)建学の精神である「眞・善・美の探究」に基づいて、保健、医療、看護、および福祉の分野で、専門知識と技術を教授し、科学的なものの見方と人に対する思いやりの心を涵養し、将来広い視野から物事をとらえ、人々がより健康に生きることをサポートできる人材を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針(公表方法:ホームページ上にて公表) https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/policy/

（概要）保健学部では、教育目標を達成するため、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、卒業要件を満たし、これらをすべて修得したと認められる学生に学士の学位を授与する。

(1)高い倫理観と社会的責任遂行能力

高い倫理観を持ち、医療専門技術職が地域社会に求められる能力を身につけ、社会的責任を積極的に果たすことができる。

(2)各学科に求められる基本的かつ実践的能力

各学科で求められる基本的知識および技術を修得し、これを実践の場で活用することができる。

(3)問題解決能力

自ら発見した問題や課題について、科学的かつ客観的に説明を加え、論理的に問題を解決できる。

(4)コミュニケーション能力を生かし医療・保健へ貢献する能力

患者を中心とするチーム医療の一員および養護教諭や社会福祉士として他の医療従事者と連携・協働できる

(5)国際的視野を持って適応できる知識や技術の活用能力

幅広い教養と医療知識を身につけ、多様な価値観の認識と異文化を理解し、グローバル社会に適応できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ上にて公表）

https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/policy/

（概要）保健学部では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの修得のために、4 年間の学習分野を「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」に分け、それぞれを構成する科目を学年進行と共に理解の深まるよう体系的かつ順次的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施する。学年進行に伴うカリキュラム体系の理解を深めるために、科目間の関連や科目内容の順次性を番号で表現する「科目ナンバリング」を行い、段階的科目理解度を高めるための模範的履修およびカリキュラム構造を示す「履修モデル」を明示する。さらに、各系統（科目群）別に段階的科目理解度を高めるための「学習目標」と「」学年進行と履修科目との関係」とを示す「履修系統図」と授業ごとにディプロマ・ポリシーとの関連を示す「カリキュラム・マップ」を明示する。また、単位制度の実質化を図るため、履修可能上限単位を適切に設定する（CAP 制）。

教育内容、教育方法については以下のように定める。

(1)教育内容

(1-1)高校から大学への円滑な導入を図るために

幅広い分野にわたる教養、専門的な知識を学ぶ上で基礎となる学力を身につけるための科目を学科の特性に応じて配置する。また、医療人としての役割、やりがい、面白さへの理解を促し学業への意欲を高めるための科目を配置する。これらを通してこれから学ぶべき種々科目の基本的事項ならびに職業イメージなど 4 年間の学びの動機付けを行う。

(1-2)確かな専門知識と実践的能力を修得するために

医療従事者および専門家に必要な医療知識の修得を目的とした講義科目、および実践できる能力を身につけるために実習科目や演習科目を配置する。また、最新の医療知識や技術に対応できるよう専門性の高い講義科目を配置し、これらを通して総合的な解釈・判断能力を身につける。

(1-3)問題解決能力を修得するために

医学及び医療技術の進歩に伴う諸問題に自ら気付き、学んできた内容を生かして、自ら進んで問題を解決する能力を修得するための科目を配置する。

(1-4)コミュニケーション能力を生かし医療・保健へ貢献する能力を修得するために

患者を中心とするチーム医療の一員および養護教諭や社会福祉士として幅広いコミュニケーション能力と他の医療従事者と連携・協働できる能力を養うために病院等の施設見学の機会や「臨床実習」および「養護実習」を配置する。これにより使命感、倫理観、責任感などの豊かな人間性も身につける。

(1-5)高い倫理観を修得し、社会的責任遂行能力を修得するために

幅広い分野にわたって教養を養い、生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を修得するために教養基礎科目を配置する。また、高い倫理観に基づき、医学および保健衛生学領域における社会的責任遂行能力を身につけるための科目を配置する。

(1-6)国際的視野を持って適応できる知識や技術の活用能力を修得するために

幅広い教養と医療知識を身につけ、多様な価値観の認識と異文化を理解するために人文・社会系科目等を配置する。また、幅広いコミュニケーション能力を修得し、グローバル化に対応するために専門性の高い外国語科目も配置する。

(2)教育方法
(2-1)高校から大学へ円滑な移行を図るために
高校までの基礎的な学習内容を確認し知識を整理する。
(2-2)確かな専門知識や実践的能力を修得するために
医学、医療分野の専門を学び演習および実験でグループディスカッションを通じて複合的なものの見方、考え方を養う。また、高度な専門技術を修得し、得られた知識を統合的に理解し、現場の課題を体感するために、学外の病院や施設における臨床実習を導入する。
(2-3)コミュニケーション能力・問題解決有能力を修得するために
チーム医療へ貢献する人材としてのコミュニケーション能力や自己表現力、主体的な問題解決能力を修得するために、能動的学修(アクティブラーニングなど)を積極的に授業に取り入れる。また、複合的なものの見方、考え方を養い客観的かつ高い意欲を持って問題解決能力を修得するために卒業研究を導入する。
(2-4)コミュニケーション能力を生かし医療・保健へ貢献する能力を修得するために
「臨床実習」を通じて、臨床現場で求められるチーム医療に必要な態度・技術・知識などを習得する。また、「病院見学」など施設見学・体験学習および「養護実習」などの実践型実習において他職種と接することで、コミュニケーション能力の向上を図る。
(2-5)高い倫理観を修得し、社会的責任遂行能力を修得するために
地域における医療人としての役割を理解し、高い倫理観を養うためにソーシャル・ラーニング(社会学修)を積極的に導入する。
(2-6)国際的な視野を広げるために
グローバル社会での適応能力および国際貢献を考える機会を与えるために海外研修を積極的に導入する。

入学者の受入れに関する方針(公表方法:ホームページ上にて公表)
https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/policy/

(概要)保健学部は、学部の理念・目的を理解し、その達成に向けて真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。
(1)求める学生像、資質
(1-1)保健・医療・福祉に貢献したいという意欲を持ち、さらにその意欲を向上させたいという熱意を持つ人
(1-2)科学的視点を持ち合わせ、様々な現象について関心、興味が持てる人
(1-3)高い倫理観と職業意識を持ち、さらにあらゆる世代の人々と積極的にコミュニケーションをはかろうとする態度を持つ人
(1-4)疑問点などをそのまま放置せず、解決に向けた努力を怠らない人

(2)求める学習成果
「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)及び「教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人材を求める。
(2-1)入学後の修学に必要な基礎学力としての知識や表現力を有している。(知識・理解・表現力)
・ 高等学校で履修する国語、社会、数学、理科、外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。
・ 日本語による文書作成、課題に応じた内容をまとめる力などの表現力を十分身につけている。
(2-2)他者の立場や意見を尊重・理解した上で、自分の考えを的確に表現しながら、他者とのコミュニケーションを図った経験を有している。(思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力)
(2-3)積極的に人と関わりを持ち、対話などを通じて相互理解に努めようとする態度を有している。(態度・主体性・多様性・協働性)
(2-4)保健・医療・福祉のみならず、教育や文化などに関わる社会の諸問題に関心があり、自らが積極的に関わっていこうとする意欲がある。(意欲・関心)
(2-5)自分の考えを的確に表現し伝えることができる。(技能・表現力)

(3)入学者選抜の基本方針
本学部の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施する。
(3-1)学校推薦型選抜

適性検査、面接および調査書の内容から、学習成果を総合して評価する。
(3-2)総合型選抜
適性検査(Ⅰ、Ⅱ)、面接、志望理由書・活動報告書および調査書の内容から、学習成果を総合して評価する。
(3-3)一般選抜
一般選抜試験(英語および選択科目)の成績を中心に、調査書の内容を総合して評価する。
(3-4)大学入学共通テスト利用選抜
大学入学共通テスト(英語および選択科目)の成績を中心に、調査書の内容を総合して評価する。
(3-5)外国人留学生選抜
適性検査、面接および成績評価証明書等の内容から、学習成果を総合して評価する。

学部等名　総合政策学部

教育研究上の目的(公表方法:ホームページ上にて公表)
https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/social_science/about/policy/

(概要)総合政策学部は、教育の本質を「総合的な教養」と「実践力」の涵養と考える。本学部はかかる教育の実現を目指し、単眼的な専門的知識のみに捉われない学際的教育を通じて、あらゆる社会科学の観点から複眼的・多角的に社会事象を考察・分析・評価し、さまざまな社会問題の解決に向けて行動する能力を備えた人材を育成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針(公表方法::ホームページ上にて公表)
https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/policy/

総合政策学部では、教育目標を達成するため、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、これらをすべて修得したと認められる学生に、学士の学位を授与する。
(1)多角的な視野
社会が内包する諸問題を、多角的視点から発見・理解・分析・考察できる。
(2)地域・国際社会に通じる実践力
地域・国際社会の一員として自己の役割を、実践的な学びを通して、理解できる。
(3)幅広い教養
高い倫理感を持ち、ある特定の分野のみに限定されない、偏りのない、幅広い教養と知的好奇心とを身につけ、社会で活躍できる。
できる。
(4)学際性の軸となる専門的な知識
学際な視点を持って問題を解決するための軸となる専門知識を修得し、活用できる。
(5)コミュニケーション・コラボレーション能力自己の発見した問題の本質的理解、客観的分析結果を他者に適切に伝えるとともに、他者の意見を傾聴しつつ、協働的に問題解決に取り組むことができる。
(6)データ分析・活用能力
情報技術と社会システムの理解をもとに、高度情報化社会で必要な情報の利活用能力を修得し、社会における諸問題を発見し解決できる。
(7)ライフ・デザイン・スキル
社会における個人の果たすべき責任と役割を認識し、自己の進むべき方向性を見定め、社会生活・経済生活を営むことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法::ホームページ上にて公表)
https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/policy/

(概要)総合政策学部では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの修得のために、専門講義科目(ベーシック科目、コース別コア科目、コース別応用科目、GCP 関連科目、DDP 科目から構成)、および専門演習科目からなる専門科目と、外国語科目、キャリア関連科目、一般教養科目からなる専門関連科目を体系的かつ学際的に配置し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施する。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の順次性を番号で表現する科目ナンバリングを行い、カリキュラムマップを作成することで、カリキュラムの構造をわかりやすく明示する。単位制度の実質化を図るため、履修可能上限単位を適切に設定する(CAP制)。また、学生が学修に専念し安定した学生生活を送ることができるよう担任制度を設け、丁寧な学生支援を行う。
教育内容、教育方法については以下のように定める。

(1)教育内容
(1-1)大学での学びへの円滑な導入を図るために
・学士課程へのスムーズな移行のための初年次教育として、多様な入学者が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できるように少人数クラスの科目「プレゼミナール」を配置する。
(1-2)多角的視野を涵養するために
・ひとつのテーマを巡り異なる専門分野の複数の教員が多角的な視点でテーマをとらえ、授業を進めていく「学際演習」を配置する。
・主コースを選択し、専門性を高めながら、他コースの科目の履修を促すことで多角的な視野を涵養する。
(1-3)地域・国際社会に通じる実践力・幅広い教養を身につけるために
・地域・国際社会の一員として自己の役割を、実践を通して認識し、高い倫理観を持ち、幅広い分野にわたって教養を養うための科目を配置する。
・地域における課題や問題点を見出し、大学での学びを役立てながら解決策について検討する力を涵養するための科目を1年次から配置する。
・「ベーシック科目」群および導入教育を通じて、さまざまな社会科学諸分野の概要を学ぶ。
(1-4)学際的学びの軸となる専門的知識を身につけるために
・各学科、コースに求められるコアとなる知識と、応用的な知識を身につけるための科目を「コア科目」群、「応用科目」群に分類し、必修科目と選択科目を区別し、順次性に配慮して配置する。
(1-5)コミュニケーション・コラボレーション能力を育むために
・社会の問題に自ら気付き、客観的な分析と高い意欲を持って問題を解決する経験をし、他者とのコミュニケーションを通じて実践的な問題を発見し、その解決に取り組む「演習」、「卒業研究」などを配置する。
・グローバル社会において必要なコミュニケーション能力の修得のために、外国語科目分野に複数の科目を配置し、国際的視野でのコミュニケーション能力の開発を図る。
(1-6)データ分析・活用能力を身につけるために
・高度情報化社会における情報の利活用の能力を修得するための科目を配置する。
(1-7)自分のキャリアを描く能力を身につけるために
・働き方が多様化し、平均余命が 80 歳を超える社会において、大学卒業後のキャリア形成を考えるために必要な知識と教養を習得するとともに、実践するためのスキルを醸成することを目的として科目を配置している。
1年次においては、多様な働き方や労使問題などの現状のほか、マネープランとライフイベントを含めたキャリア形成のために必要な基礎知識を習得する。
2年次では、社会で活躍する様々な人々の知見に接し、ロールモデルを知ることで自らのキャリア形成をより具体化させることを目的としており、インターンシップによる就業体験に必要な基礎力を養う。3 年次では面接やグループ・ディスカッションといった実際の就職活動を疑似体験するとともに、実際の進路選びに必要な知識を習得し、キャリアプランを完成させるよう科目を配置している。
(2)教育方法
(2-1)学際性を重視した教育を行うため
・ベーシック科目 7 科目のうち、4 科目を選択必修とし、コースの選択のみならず、さまざまな分野に関してその概要を学んだ経験を持たせる。
・専門科目の履修に際しては、各学科の各コースに設置された専門科目を、学科横断的、コース横断的にさまざまなパターンで履修できるようにする。
(2-2)社会のグローバル化への要請に対応するため
・グローバルキャリア・プログラムにおいては、ネイティブの教員、オンライン英会話等、実践性を重視した英語教育を行う。
・グローバルキャリア・プログラムに参加しない学生にも、希望に応じてそのプログラム内の科目を履修する機会を設ける。
(2-3)高度情報化社会に対応するため
・進展する情報化社会の基幹となる情報技術と社会システムについて理解し、そうした技術をビジネスに活用できる高度な能力を涵養するための科目を体系的に配置する。また、このような能力を体系的に修得するためのプログラムとして、データ・デザイン・プログラムを置く。
(2-4)高い問題発見・解決能力と自己表現力・情報発信力を修得するために
・問題発見・解決能力・自己表現力・情報発信力を修得できる能動的学修(アクティブラーニング)

方法を取り入れた科目を積極的に導入する。
入学者の受入れに関する方針(公表方法:ホームページ上にて公表　) https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/policy/
(概要)総合政策学部は、本学部の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。 **(1)求める学生像、資質** (1-1)多角的・複眼的視点に立って、社会の仕組みやあるべき政策に関する諸問題を、把握・分析・解決しようとする意欲を持つ人 (1-2)様々な問題を理解し、問題解決のために必要な能力の土台となり得る科目の基礎を修得している人 (1-3)様々な考えなどを的確に理解したり、適切に人に伝えたり、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を持つ人 (1-4)社会人として求められる基礎的な能力や知見を身につけ、卒業後に社会において積極的に活躍する強い意志と意欲を持つ人 (1-5)政治・経済・法律・国際関係・福祉・経営および会計の分野を中心に、多角的視点から問題を把握・分析・解決することに意欲を持ち、広く社会に貢献することを目指す人 **(2)求める学習成果** 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)および「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を求める。 (2-1)入学後の修学に必要な基礎学力としての知識を有している。(知識・理解) ・高等学校で履修する国語・地理歴史・公民・数学・理科・外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。 ・基本的な日本語運用力と表現力を身につけている。具体的には、文章読解力、課題に応じた内容をまとめる力などの表現力を身につけている。 (2-2)知識・技能を活用して、自ら問題を発見し、その解決に向けて物事を多角的視点から論理的に考察することができる。(思考力・判断力) (2-3)自分の考えや知識、経験などを的確に表現し、伝えることができる。(技能・表現力) (2-4)社会の仕組みやあるべき政策に関する諸問題に深い関心を持ち、社会に積極的に貢献する意欲がある。(関心・意欲) (2-5)積極的に他者と関わり、多様な人々との対話を通して相互理解に努めようとする態度を有している。(態度・主体性・多様性・協働性) **(3)入学者選抜の基本方針** 本学部の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施する。 **(3-1)学校推薦型選抜** 面接、小論文、および調査書等の内容から、学習成果を総合して評価する。 **(3-2)総合型選抜** 面接、課題、小論文、調査書および資格・検定試験等の内容から、学習成果を総合して評価する。 **(3-3)一般選抜** 一般選抜入学試験の成績および調査書の内容を総合して評価する。 **(3-4)大学入学共通テスト利用選抜** 大学入学共通テストの成績および調査書の内容を総合して評価する。 **(3-5)外国人留学生選抜** 面接、小論文および日本語能力検定試験等の内容から、学習成果を総合して評価する。

学部等名　外国語学部
教育研究上の目的(公表方法:ホームページ上にて公表) https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/foreign/about/policy/

(概要)外国語学部は外国語の修得を通じて、「言葉」の持つ豊かな創造性とコミュニケーション機能の可能性を追求するとともに、異文化の垣根を越えて相互に理解し共存できる人間性そのものを陶冶し、実践的な外国語運用能力の開発を通じて、実社会の中で必要な専門的知識を備えた国際的な職業人を養成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針(公表方法:ホームページ上にて公表) https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/policy/
(概要)外国語学部では、教育目標を達成するため、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、卒業の要件を満たし、これらをすべて修得したと認められる学生に、学士の学位を授与する。 **(1)高度な外国語運用能力** ・母語だけではなく少なくとも一つの外国語(英語または中国語)を実践的かつ高度に運用できる。 **(2)コミュニケーション能力** ・グローバル社会で良好な対人関係を主体的に築くことを目指し、ホスピタリティに溢れたコミュニケーションができる。 **(3)問題解決能力** ・知識・技能を活用しながら、自ら問題・課題を発見し、情報分析能力・データ分析能力を活用した客観的分析と柔軟な発想によって問題・課題を解決することができる。 **(4)自己表現力・情報発信力** ・他者の意見・主張を尊重し理解した上で、議論・交渉の場において自らの意見を明確に表現し、新たな情報を創造・発信することで建設的な主張を展開することができる。 **(5)異文化理解とグローバル人材力** ・幅広い教養を身につけ、多様な価値観の認識・尊重と適切な正しい異文化理解に基づいて、グローバル社会で他者と協働し活躍することができる。 **(6)高い倫理観と社会的責任遂行能力** ・グローバル社会・地域社会の持続的発展のために、 将来を見据え自律的に行動し、他者と協調・協働しながら、高い倫理観を持ち、社会的責任を積極的に果たすことができる。 **(7)専門的な知識・技術・技能と活用力** ・実社会の中で必要な基礎専門能力を修得し、それを発展的に活用することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法:ホームページ上にて公表) https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/policy/
(概要)外国語学部では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力の修得のために、外国語科目、基盤教育科目、教養科目そして専門科目の 4 つの科目区分から成る授業科目を体系的かつ順次的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施する。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の順次性を番号で表現する科目ナンバリングを行い、カリキュラムマップを作成することで、カリキュラムの構造をわかりやすく明示する。単位制度の実質化を図るため、履修可能上限単位を適切に設定する(CAP 制)。また、学生が学修に専念し安定した学生生活を送ることができるよう、アカデミックアドバイザー制度を通して学生支援を行う。 教育内容、教育方法については以下のように定める。 **(1)教育内容** **(1-1)高度な外国語運用能力を修得するために** ・各学科における主要な外国語(英語または中国語)の実践的かつ高度な運用能力の基盤を築くため、それぞれの外国語科目の必修科目と選択科目を設置する。 **(1-2)コミュニケーション能力を修得するために** ・外国語運用能力拡充の基盤形成のために、学科の主要外国語以外の外国語科目を配置する。 ・グローバル社会で通用する対人コミュニケーション力を涵養するための科目を配置する。 **(1-3)問題解決能力を修得するために** ・学士課程へのスムーズな移行のための初年次教育として、多様な入学者が自ら学修計画を立て、主体的に問題点・課題点を発見する知的習慣の形成を可能にするための科目を配置する。 ・現代社会における現象や問題を量的アプローチにより分析し、解決策を導くことができる能力を陶冶し、さらにその能力を強化するための科目を設置する。 ・自ら問題・課題を発見し、解決する能力を高めるための科目を配置する。 **(1-4)自己表現力・情報発信力を修得するために** ・日本語での自己表現力・情報発信力を高めるための科目を初年次に配置する。 ・日本の伝統・歴史・文化を表現・発信することを目指した科目を配置する。

・各学科の専門教育を通して学修した知識や技能を表現・発信するための科目を配置する。
(1-5)異文化理解とグローバル人材力を修得するために
・グローバル社会において必要とされる幅広い教養を身につけ、多様な価値観の認識と適切な異文化理解を深めるための科目を配置する。
(1-6)社会的責任遂行能力を修得するために
・地域社会の持続的な発展のために、他者と協調・協働しながら自分の能力を積極的に役立てる力の修得を目指した科目を配置する。
・将来を見据え自律的に行動し、学士課程修了後に社会的責任を遂行するために、キャリア教育科目を配置する。
(1-7)専門的な知識・技術・技能とその活用力を修得するために
・各学科に求められる共通の基礎専門能力と、それらをさらに発展させた応用的な専門能力を修得するため、専門分野の体系に基づき、必修科目と選択科目を区別し、学年・学期別の科目配置を行う。
・個別テーマに関する専門的知識・技術・技能を獲得するとともに、それらを課題解決に活用する能力を修得するための科目を必修科目として配置する。

(2)教育方法
(2-1)グローバル社会での適応能力を修得するために
・グローバル社会での適応能力を涵養するため、海外留学・研修・実習プログラムを積極的に導入する。
(2-2)高い問題解決能力と自己表現力・情報発信力を修得するために
・問題解決能力・自己表現力・情報発信力を修得できる能動的学修(アクティブラーニング)方法を取り入れた科目を積極的に導入する。
(2-3)社会的責任遂行能力の修得のために
・グローバル社会と地域の双方を舞台にした活動体験・現場体験を通して適応能力を涵養するため、フィールドワーク、インターンシップ、ボランティアなどのソーシャルラーニング(社会学修)を積極的に導入する。
(2-4)高度な外国語運用能力を修得するために
・外国語による専門的な知識・技術・技能の修得を図るために、CLIL(Content and Language Integrated Learning)手法を積極的に導入する。

入学者の受入れに関する方針(公表方法:ホームページ上にて公表)
https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/policy/

(概要)外国語学部と各学科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。
(1)求める学生像、資質
(1-1)実践的な外国語運用能力を身につけ、グローバル化する実社会で活躍する仕事に就く意欲がある人
(1-2)外国語や日本語で情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりするために、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を持つ人
(1-3)外国語学部の各学科での修学について強い好奇心・関心を持ち、問題について自発的に探究し、思考力・判断力・表現力を駆使して、問題解決につなぐ意欲を持つ人
(1-4)外国語や異文化に対する興味・関心を持ち、広い視野や国際感覚、国際協調の精神を身につける意欲を持つ人
(1-5)グローバル社会・地域社会において、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を持つ人

(2)求める学習成果
「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)及び「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を求める。
・基本的な英語力を身につけている。具体的には、(公財)日本英語検定協会による実用英語技能検定準2級以上に相当する英語運用能力を入学までに身につけている。
(2-1)入学後の修学に必要な基礎学力としての知識や言語運用能力を有している。(知識・理解・言語運用能力)

・高等学校で履修する国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。
・基本的な日本語運用力と表現力を身につけている。具体的には、文章読解力、課題に応じて内容をまとめる力などの表現力を身につけている。
・英語学科、観光交流文化学科の場合は、(財)日本英語検定協会による実用英語技能検定準 2 級に相当する英語運用能力を入学までに身につけている。
(2-2)自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。(技能・表現力)
(2-3)知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて物事を多面的かつ論理的に考察することができる。(思考力・判断力)
(2-4)教育、人間、自然、文化などにかかわる諸問題に対する関心を持ち、課外活動・社会的活動・国際的経験を積んだことがある。(関心・経験)
(2-5)積極的に他者と関わり、多様な人々との対話を通して相互理解に努めようとする態度を有している。(態度・主体性・多様性・協働性)

(3)入学者選抜の基本方針
本学部の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施する。
(3-1)学校推薦型選抜
面接、小論文および調査書、活動報告書、資格・検定試験等の結果の内容から、学習成果を総合して評価する。
(3-2)総合型選抜
志望理由書、課題・小論文および面接、調査書の内容から、学習成果を総合して評価する。
(3-3)一般選抜
一般選抜試験(英語および選択科目)の成績を中心に、調査書の内容を総合して評価する。
(3-4)大学入学共通テスト利用選抜
大学入学共通テスト(外国語および選択科目)の成績を中心に、調査書の内容を総合して評価する。
(3-5)外国人留学生選抜
選抜試験(中国語学科と観光交流文化学科の場合は日本語、英語学科の場合は英語)、または日本留学試験の成績と面接の内容から、学習成果を総合して評価する。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法:ホームページ上にて公表
https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/outline/formation/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手その他	計
－	1 人	－					1 人
医学部	－	83 人	45 人	53 人	227 人	0 人	408 人
保健学部	－	59 人	47 人	59 人	61 人	0 人	226 人
総合政策学部	－	16 人	8 人	3 人	0 人	0 人	27 人
外国語学部	－	18 人	9 人	7 人	0 人	0 人	34 人
その他	－	3 人	1 人	3 人	1 人	0 人	8 人

b. 教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0 人	157 人	157 人

各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）	公表方法： ＜医学部＞ 大学ホームページで公表 http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/medicine/education/staff/ ＜保健学部・総合政策学部・外国語学部＞ 大学ホームページ（各学部教員一覧、教員紹介） https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/health/education/staff/ https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/social_science/education/officehour/ https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/foreign/education/teacher/

c. ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

＜医学部＞
2022 年度は教員を対象に 6 回実施（テーマは次の通り、①グローバルデータシェアリングによる医療の課題解決と研究倫理、②解剖学実習におけるアクティブラーニング、③患者の理解が不可欠な医師の働き方改革とチーム医療、④カルテ記載について、⑤臨床研究の組み立て方、⑥プレチュートリアルについて

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学定員	編入学者数
医学部	118 人	118 人	100%	699 人	728 人	104.1%	0 人	0 人
保健学部	786 人	834 人	106.1%	2,914 人	2,970 人	101.9%	0 人	0 人
総合政策学部	230 人	243 人	105.7%	932 人	1,010 人	108.4%	6 人	10 人
外国語学部	252 人	258 人	102.4%	1,020 人	1,071 人	105%	8 人	8 人
合計	1,386 人	1,453 人	104.8%	5,565 人	5,779 人	103.8%	14 人	18 人

（備考）

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
医学部	112 人 (100%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	112 人 (100%)
保健学部	677 人 (100%)	51 人 (7.5%)	561 人 (82.9%)	65 人 (9.6%)
総合政策学部	249 人 (100%)	0 人 (0%)	222 人 (89.2%)	27 人 (10.8%)
外国語学部	241 人 (100%)	2 人 (0.8%)	221 人 (91.7%)	18 人 (7.5%)
合計	1,279 人 (100%)	53 人 (4.1%)	1,004 人 (78.5%)	222 人 (17.4%)

（主な進学先・就職先）（任意記載事項）
＜医学部＞
付属病院
＜保健学部・総合政策学部・外国語学部＞
インターネットイニシアティブ、帝国データバンク、テルモ、東海旅客鉄道、日本アイ・ビー・エム、国税局、東京消防庁、杏林大学医学部付属病院など

（備考）

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)

（備考）

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）
＜医学部＞
「履修案内・授業案内（シラバス）」は、科目毎に「教育の基本方針、到達目標、修得すべき能力、学習内容、実習・課外授業、準備学習の内容、復習学習の内容、成績評価の方法・基準、学習指導書」を記載することを作成要領に記し、科目責任者等に作成を依頼する。また、講義予定表には講義回毎の講義テーマ、講義内容、担当教員、教科書該当箇所を明示している。
また、シラバス作成の過程で、シラバス点検委員による点検作業を受けている。
完成した「履修案内・授業案内（シラバス）」は年度初めに学生に配布するとともに大学 HP において公表している。
※様式第２号の３【（３）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】再掲
＜保健学部・総合政策学部・外国語学部＞
毎年10月頃に開講科目担当者等の調査を行い、11月末から12月までに本学で導入している学内システム（UNIVERSAL PASSPORT）のシラバス機能にて教員が作成する。その後、教務課事務が校正および教務委員によるシラバス第三者チェックを経た後、4月上旬に学内システム（UNIVERSAL PASSPORT）にて学内・学外から閲覧できるようにしている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）
＜医学部＞
科目毎に示した「成績評価の方法・基準」及び「杏林大学医学部学修規程」に基づき、医学部各学年の判定会を経て、医学部教務委員会にて評価を厳格に行い、医学部教授会にて最終審議が行われ、単位を認定している。

＜保健学部・総合政策学部・外国語学部＞
学修の成果に係る評価は、定期試験、実技試験、レポート等などを学期末に行い、各科目の授業計画に明記している成績評価の方法・基準を基に成績評価を実施している。また、卒業認定にあたっては、ディプロマ・ポリシーに定められた能力を卒業時点までに獲得し、卒業要件を満たし、これらをすべて修得したと認められる
学生について、教授会の議を経て学長が卒業を認定している。

学部名	学科名	卒業に必要となる単位数	ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項）	履修単位の登録上限（任意記載事項）
医学部	医学科	207 単位	有・無	単位
保健学部	臨床検査技術学科	124 単位	有・無	単位
	健康福祉学科	124 単位	有・無	単位
	臨床工学科	124 単位	有・無	単位
	救急救命学科	124 単位	有・無	単位
	理学療法学科	125 単位	有・無	単位
	作業療法学科	125 単位	有・無	単位
	看護学科看護学専攻 （旧課程） （新課程）	133 単位 137 単位	有・無	単位
	看護学科看護養護教育学専攻	133 単位	有・無	単位
	診療放射線技術学科 （旧課程） （新課程）	133 単位 132 単位	有・無	単位
	臨床心理学科	124 単位	有・無	単位
	リハビリテーション学科理学療法学専攻	125 単位	有・無	単位
	リハビリテーション学科作業療法学専攻	125 単位	有・無	単位
	リハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻	132 単位	有・無	単位
総合政策学部	総合政策学科	124 単位	有・無	単位
	企業経営学科	124 単位	有・無	単位
外国語学部	英語学科	124 単位	有・無	単位
	中国語学科	124 単位	有・無	単位
	観光交流文化学科	124 単位	有・無	単位
ＧＰＡの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：ホームページ https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/student/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料（年間）	入学金	その他	備考（任意記載事項）
医 学 部	医学科	3,000,000円	1,500,000円	5,000,000円	・施設設備費など 初年度
		3,000,000円	円	2,500,000円	・施設設備費など ２年次以降
保健学部	臨床検査技術学科	1,150,000円	250,000円	500,000円	・施設設備など
	看 護 学 科	1,150,000円	250,000円	250,000円	
	臨 床 工 学 科	1,150,000円	250,000円	500,000円	
	救 急 救 命 学 科	1,150,000円	250,000円	500,000円	
	リハビリテーション学科	1,150,000円	250,000円	500,000円	
	診療放射線技術学科	1,150,000円	250,000円	500,000円	
	健 康 福 祉 学 科	1,150,000円	250,000円	250,000円	
	臨 床 心 理 学 科	1,150,000円	250,000円	250,000円	
総合政策学部	総 合 政 策 学 科	720,000円	250,000円	200,000円	・施設設備など
	企 業 経 営 学 科	720,000円	250,000円	200,000円	
外国語学部	英 語 学 科	720,000円	250,000円	200,000円	・施設設備など
	中 国 語 学 科	720,000円	250,000円	200,000円	
	観光交流文化学科	720,000円	250,000円	200,000円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） ＜医学部＞ 担任制度を採用している。 ＜保健学部＞ 担任制を導入しており、学生からの履修や授業の内容に関する相談に対して支援を行っている。 ＜総合政策学部＞ 1年次に開講している必修科目のプレゼミナールは、20数名のクラスに1名の教員が担任となり、レポートの書き方や学修ツールの操作、卒業までの活動計画など、学生の目的と方法を担任教員と考える。2年次以上は、ゼミ担当教員が研究以外にも学修・進路等の支援を行っている。ゼミに所属しない学生には、指導教員がつきゼミ同様の支援を行っている。 ＜外国語学部＞ 全学生にアカデミックアドバイザーを配置し成績や授業履修に関するアドバイジングを実施している。

b.進路選択に係る支援に関する取組
（概要） ＜医学部＞ 担任制度を採用している。 ＜保健学部・総合政策学部・外国語学部＞ 職業観を養うため、正課内教育においては、保健学部は職業適性論、総合政策学部、外国語学部においてはキャリア関連科目を設けている。正課外教育では、3学部ともにキャリアサポートセンターが就職支援講座の提供や企業人事担当者を招いての企業研究セミナーを開催するなど、進路選択の支援を行っている。また、キャリアカウンセラーが進路選択の悩みを抱える学生の相談に応じている。
c.学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要） ＜医学部＞ 学生相談室を設置している。 外部の相談窓口（委託業者）を設置している。 ＜保健学部・総合政策学部・外国語学部＞ 心の健康に関しては、臨床心理士/公認心理師であるカウンセラーを配置し相談に応じている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページ
https://www.kyorin-u.ac.jp/ https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/medicine/news/ https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/health/news/ https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/social_science/news2.html https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/foreign/news.html https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/society/ https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/outline/information/

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F113310103876
学校名	杏林大学
設置者名	学校法人　杏林学園

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		386人	376人	413人
内訳	第Ⅰ区分	217人	217人	
	第Ⅱ区分	101人	100人	
	第Ⅲ区分	68人	59人	
家計急変による支援対象者（年間）				5人
合計（年間）				418人

（備考）
給付奨学生として給付金のみ受給している人：1人（表に1人を含めておりません。）

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第１号、第２号、第３号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	8人		
修得単位数が標準単位数の５割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の５割以下）	1人		
出席率が５割以下その他学修意欲が著しく低い状況	9人		
「警告」の区分に連続して該当	13人		
計	29人		
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	1人	前半期	0人	後半期	0人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
３月以上の停学	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の６割以下（単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の６割以下）	0人		
ＧＰＡ等が下位４分の１	32人		
出席率が８割以下その他学修意欲が低い状況	15人		
計	37人		
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。